

2020綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画(綾の照葉樹林プロジェクト)

令和2年度 事業報告書



綾中学校 環境学習「てるはの時間」:照葉大吊橋遊歩道にて

綾の照葉樹林プロジェクト連携会議

九州森林管理局・宮崎県・綾町
(公財) 日本自然保護協会・(一社) てるはの森の会

2020年度 綾の照葉樹林プロジェクト 活動報告概要版

11月～3月

獣害防除作業



照葉樹林の復元

獣害防除(忌避剤散布)を行いました!(県)

シカ・ウサギの食害からカヤを守るため、獣類が嫌がる匂いの薬剤を幹に塗って獣害対策を図っています。
山で獣類の食べ物が不足する冬場(11月～3月)に実施し、散布は年に2回で、1回目と2回目の散布期間を1ヶ月以上空けています。

11月28日

ボランティア林床調査



調査・研究

ボランティア林床植生調査を実施しました!(N)&国&町&T)

2020年3月に宮崎森林管理署によって、多古羅林道入口付近の伐採地に移植された照葉樹の苗木(ウラジロガシとアラカシ)について、11月28日にボランティア3名(+6名スタッフ)で、苗木の生残と樹高成長、根元径の測定を行いました。防鹿柵とシェルターを設置した個体の生残や成長をみると、防鹿柵内の個体の方が生残率は高く、樹高成長よりも萌芽による側方成長を優先する傾向がありました。

9月～3月

九州自然歩道魅力ステップアップ事業



かんきょう教育

九州自然歩道魅力ステップアップ事業を行いました!(県)

九州自然歩道は、本県を縦断し、地域の歴史や文化、豊かな自然などを結ぶ長距離自然歩道です。自然の大切さや森林の持つ公益的機能を感じることを出来るフィールドとして活用されるよう、全線のコース現況を把握する調査を行い、整備・利用計画を策定しました。

11月24日

ボランティア遊歩道調査

ボランティア遊歩道調査を行いました!(T)

昨年の台風による倒木があり綾の照葉大吊橋奥の県有林遊歩道が通行止めとなったため、歩道の被害個所の調査を行いました。多数の箇所で見られ、復旧には、人手と資材が必要と思われる事がわかりました。

12月～2月

災害復旧事業(吊橋遊歩道)



県有施設災害復旧事業を計画しています!(県)

照葉大吊橋を渡って周回するコースの一部で、倒木が歩道橋をふさぎ、転落防止用の柵が破損するなどの災害が発生しました。県では、歩道利用者の通行の安全確保を図るため、復旧に向けた測量設計を行いました。令和3年度に、復旧工事を発注する予定です。

3月(川中製材所跡)

案内板設置



普及活動

川中製材所跡に案内板を設置しました!(国)

川中製材所跡では、当時、製材所施設の一部であったレンガ造りの蒸気発電施設や蒸気発電のためのコンクリート製水槽の跡などを見ることが出来ます。こうした、貴重な施設跡やここに通じる軌道跡などを活用し森林環境教育に活かして行きます。

「綾の照葉樹林プロジェクト」リーフレットを改訂しました!(国)

平成20年3月に作成した「綾の照葉樹林プロジェクト」リーフレットを改訂しました。各機関において、森林環境教育の他、様々な機会を通じて綾の照葉樹林プロジェクトの普及啓発を行っていきます。

3月

リーフレット改訂



森と共生した地域づくり

地域づくりワーキンググループ(T&町)

上畑自治公民館を中心に昼食付里山体験ツアー「おとなの山学校」事業の実施に向け、パンフレット、ポスターを作成しました。延期になったモニターツアーの実施を目指し、準備中です。



綾プロ地域づくりワーキンググループ

綾ユネスコエコパーク活動



綾ユネスコエコパーク関連の活動を報告します!(町)

綾BRセンターや野外で地元の小・中学校の校外学習等の対応を行った一方で、コロナ禍のため県外からの視察対応はほとんどありませんでした。()内は綾プロ関連の件数。

- ・視察、外部対応: 48件 (1件)
- ・綾町主催のイベント: 41件 (6件)
- ・他者主催の講座など: 3件 (1件)
- ・取材対応: 9件 (1件)
- ・調査、作業: 16件 (14件)
- ・会議、打合せ: 86件 (37件)

※国は九州森林管理局・宮崎森林管理署、県は宮崎県、N Jは日本自然保護協会、Tはてるはの森の会、全は連携会議各機関

綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画(綾の照葉樹林プロジェクト)

令和2年度 事業報告書

目 次

I 第Ⅳ期短期行動計画と令和2年度実施事業一覧.....	1-2
II 令和2年度 事業報告 (※短期行動計画順に、実施した事業名・報告書記載者名を掲載)	
1 項目:協働の体制づくり — 綾の照葉樹林プロジェクトの推進のための基盤整備	
1-3-① 綾プロ運営体制の見直し(連携:九州森林管理局・綾町)	3
1-3-② プロジェクト事務局運営事業(連携:九州森林管理局・綾町)	4
3 項目:照葉樹林の復元 — 照葉樹林への復元を推進する	
3-1-① 復元手法の検討(連携:九州森林管理局)	5
3-2-① 人工林から照葉樹林への復元事業(宮崎県)	6
3-2-① 人工林から照葉樹林への復元作業(九州森林管理局)	7
3-2-③ 綾プロエリア等における鳥獣捕獲事業(九州森林管理局)	8
3-3-② 照葉樹林復元の動態モニタリング等(九州森林管理局)	9
3-4-① 照葉樹林復元ボランティア作業の実施(九州森林管理局)	10
4 項目:照葉樹林の調査研究 — 照葉樹林を適切に保全管理するための	
調査研究を推進し、反映する	
4-5-① 市民参加による自然林の復元調査及び自然林の調査(日本自然保護協会)	11
5 項目:照葉樹林を通した環境教育 — 環境教育を推進する	
5-1-② 環境教育のための実施計画の検討(連携:九州森林管理局)	12
5-1-③ 照葉樹林に親しむイベントの開催(連携:てるはの森の会)	13
5-2-② 路網整備事業(宮崎県)	6
5-2-② 九州自然歩道魅力ステップアップ事業(宮崎県)	14
5-2-② 遊歩道整備ボランティア作業(てるはの森の会)	15
5-2-③ 県有施設災害復旧事業(宮崎県)	16
5-3-① 環境学習事業・照葉樹林ガイドボランティア事業補助	
(てるはの森の会)	17
6 項目:プロジェクトの情報発信 — 情報発信及び支援の輪の拡大活動	
6-1-① 会員情報(てるはの森の会)	18
6-1-③④ 普及啓発事業(てるはの森の会)	19
6-1-④ ホームページ等による情報発信(九州森林管理局)	20
6-1-⑥ 環境教育のための実施計画の検討(連携:九州森林管理局)	21
7 項目:照葉樹林と共生した地域づくり — 自然と共生した地域づくりへの貢献を推進する	
7-1-① 地域づくりワーキング事業補助(てるはの森の会)	22
7-1-② 照葉大吊橋 森の驛運営事業(てるはの森の会)	23
7-2-① 綾町森林づくりビジョン策定(綾町)	24
7-3-① ユネスコエコパークとの連携(綾町)	25

7-3-① 綾ユネスコエコパーク専門委員会、地域連携協議会への出席。綾町ユネスコ エコパーク運営会議における実施計画策定支援（日本自然保護協会）	26
8 項目:生物多様性の保全 ― 生物多様性の保全管理を推進する	
8-1-① 持続的林業経営エリアにおける森林整備（九州森林管理局）	27
8-1-① 県営林造成事業（宮崎県）	6
8-2-② 綾生物多様性地域戦略 実践支援事業（綾町）	28
 III 令和2年度 綾の照葉樹林プロジェクト社会的活動まとめ	29
 IV 令和2年度 綾の照葉樹林プロジェクト関連文献一覧	30
 V 令和2年度 綾の照葉樹林プロジェクト関連新聞記事	31

第Ⅳ期短期行動計画(平成30年～34年度)と令和2年度 実施事業一覧

重点目標: ①復元手法の検討 ②環境教育 実施計画の検討 ③綾プロ運営体制の見直し

第Ⅳ期短期行動計画					令和2年度事業報告				
項目		第Ⅳ期課題	行動計画	実施項目	主担当	記載者	事業名	連携先	頁
1	協働の体制づくり	綾の照葉樹林プロジェクトの推進のための基盤整備	1 協定書を見直し第Ⅴ期行動計画を作成する	① 協定書を延長するとともに必要に応じて内容の見直しを検討	連携				
				② 第Ⅴ期短期行動計画の策定	連携				
			2 中長期目標と目標設定の見直し	① 目標を再確認し必要に応じて見直しを検討する	連携				
			3 運営体制の見直し	① 運営体制を再検証し再構築する	連携	町	綾プロ運営体制の見直し（連携）	全	3
				② 専従職員を配置し事務局業務を行う	T	町	プロジェクト事務局運営事業	全	4
2	照葉樹林の保護	保護林の計画的・順応的保全管理を実施	1 保全管理計画を策定する	① 保全管理計画を策定する。	国				
			2 保全管理計画に基づき適切な保全管理を行う	① 巡視体制の構築	全				
				② 管理施設（案内板・標識等）の整備	全				
3	照葉樹林の復元	照葉樹林への復元を推進する	1 シカ被害対策を含む効果的・効率的な復元手法を確立する	① 復元手法を再検討する場を設ける。	連携	国	復元手法の検討（連携）	全	5
				② シカ被害対策も含めた復元に向けた基本方針を策定し、施行する	全				
			2 計画的な施策を実施する	① 計画的な間伐の実施（国有林、県有林、町有林）	国・県・町	県国	人工林から照葉樹林への復元事業		6 7
				② 復元見本林の整備	連携				
			3 復元効果を評価する調査研究を推進する	③ 有害鳥獣捕獲の実施	国	国	綾プロエリアにおける有害鳥獣捕獲事業		8
				① 間伐後の復元状況を評価調査実施（国有林、県有林、町有林）	国・県・町・NJ				
			② データの収集、解析、復元方法へのフィードバック方法の確立	国・県・町・NJ	国	照葉樹林復元の動態モニタリング等		9	
4 市民のプロジェクトへの参加を推進する	① 市民参加型の復元作業の実施	国・T	国	照葉樹林復元ボランティア間伐作業の実施	T	10			
4	照葉樹林の調査研究	照葉樹林を適切に保全管理するための調査研究を推進し、反映する	1 協働した調査・研究の体制を構築する	① 調査研究ワーキンググループの設置を含めた調査・研究体制を検討する場を設ける	連携				
				② 他のワーキンググループや調査研究機関との連携体制の整備	国・町				
			2 調査・研究のための基本方針（構想）を策定し、計画的に調査を実施する	① 調査・研究の基本方針（構想）を策定	国・県・町・NJ				
				② 基本方針に基づき毎年度計画的な調査の実施	国・県・町				
			3 モニタリング調査の実施	① 保護林・緑の回廊に関する調査	国				
				② ナラ枯れに関する調査	国・県・町				
			4 調査・研究成果の共有化及びデータベースを構築する	① GISを活用した林小班ごとの復元に必要な情報の整備	国・NJ				
② 調査・研究成果の共有化・データベース化	国・NJ								
		5 市民のプロジェクトへの参加を推進する	① 市民参加型の調査研究の実施	町・NJ・T	NJ	市民参加による自然林の復元調査及び自然林の調査	全	11	

第Ⅳ期短期行動計画(平成30年～34年度)と令和2年度 実施事業一覧

重点目標: ①復元手法の検討 ②環境教育 実施計画の検討 ③綾プロ運営体制の見直し

第Ⅳ期短期行動計画						令和2年度事業報告			
項目		第Ⅳ期課題	行動計画	実施項目	主担当	記載者	事業名	連携先	頁
5	照葉樹林を通じた環境教育	環境教育を推進する	1 基本計画を策定する	① 基本計画を策定する	連携				
				② 環境教育エリア内の必要な整備計画を策定	国	国	環境教育のための実施計画の検討（連携）	全	12
				③ 環境教育プログラムを検討し、試行的に実施	連携	T	照葉樹林に親しむイベントの開催（連携）	全	13
			2 大吊橋周辺、川中自然公園、大口遊歩道等の活用方法を検討する	① 環境教育に関する活用方法の検討	T				
				② 必要なルート整備を実施	県・町・T	県	路網整備		6
						県	九州自然歩道魅力ステップアップ事業		14
						T	遊歩道整備ボランティア作業	県	15
			③ 崩壊した九州自然歩道について新たなルートや歩道復旧を検討する。	県	県	県有施設災害復旧事業	県	16	
			3 ガイドボランティアを養成し、市民の理解を深める	① ガイドボランティア事業の実施・養成	T	T	環境学習事業・照葉樹林ガイドボランティア事業補助	町	17
				② ガイドを通して市民に綾プロを理解してもらうためのプログラム作り	T				
③ 森林セラピーとの連携体制の検討	町・T								
6	プロジェクトの情報発信	情報発信及び支援の輪の拡大	1. 市民や企業など広く一般にプロジェクトの内容を知ってもらい、参画や会員の拡大を図る	① サポーターの募集を行い、会員を増やす	全	T	会員情報	全	18
				② パンフレット、リーフレットの作成及び配布	全				
				③ ニュースレター、報告書の作成及び配布	全	T	普及啓発事業		19
				④ HPの作成及び更新	全	国	ホームページ等による情報発信		20
						T	普及啓発事業		19
				⑤ フォーラムの実施	T				
				⑥ 事業説明会の実施	連携	国	綾町町民等を対象に、事業説明会を行い、各機関の取り組みを普及啓発する。	全	21
7	照葉樹林と共生した地域づくり	自然と共生した地域づくりへの貢献を推進する	1 市民との協働で実施する運営体制を構築し、市民が積極的に綾プロに参画できるようにする	① 地域づくりワーキングの設置及び運営	町・T	T	地域づくりワーキングの設置と運営・事業補助	町	22
				② てるはの森の驛の活用方法を検討し、それに応じて必要な整備	町・T	T	照葉大吊橋 森の驛運営事業	町	23
				③ ふれあい調査の実施	NJ・T				
			2 綾町の他の事業との連携のあり方を検討し、実行計画を策定する	町	町	綾町森林づくりビジョン策定	国・県	24	
			3 綾プロと綾ユネスコエコパークの連携を推進する	国・県・町	町	ユネスコエコパークとの連携	全	25	
NJ	綾町ユネスコエコパーク関連の会議出席。実施計画策定支援	町			26				
8	生物多様性の保全管理	生物多様性の保全管理を推進する	1 持続的林業経営の推進	① 持続的な林業経営を行うエリアにおける施業の実施	国・県	国	持続的林業経営エリアにおける森林整備		27
						県	県営林造成事業		6
			2 生物多様性地域戦略を推進する	① 綾町の里山周辺の植生調査	町・NJ				
② 生物多様性地域戦略の実施	全	町	綾生物多様性地域戦略 実践支援事業	NJ	28				

1 項目:協働の森づくり

事業名	綾プロ運営体制の見直し(継続)	実施主体	九州森林管理局 綾町
項目-行動計画- 実施項目	1-3-①	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	事務局体制や各種ワーキング、研究体制を含めて、綾プロの全体的な運営体制について現状に即した在り方を検討する		
【事務局運営体制について】 令和2年度より、九州森林管理局と綾町が事務局を担当した。(4月～9月:九州森林管理局、10月～3月:綾町) これまでてるはの森の会が事務局業務として行ってきた業務について、引き続き九州森林管理局と綾町が担当できるか検討した。また、業務担当割り振り(案)を作成し5者にて検討した。 【連携会議会則改正について】 「綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画推進連携会議会則」について、事務局が移行した事も考慮に、わかりやすく、かつ現状の綾プロ運営状況に則するような内容に変更することを検討した。 【5者意見のとりまとめ】 事務局運営体制について、てるはの森の会がアンケートを作成し、各機関の意見をとりまとめた。 上記について、連絡調整会議や5者運営検討会議のなかで協議を重ねたが、コロナ禍の影響も受け、各機関の意見をまとめられず、引き続き協議が必要となった。 令和3年度も上記について、綾プロ全体の運営体制も含めて、協議を進めていく予定。			

1 項目:協働の森づくり

事業名	プロジェクト事務局運営事業(継続)	実施主体	九州森林管理局 綾町
項目-行動計画- 実施項目	1-3-②	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	関係機関との調整、問合せ対応、事業の企画運営などを行なう。 年 2 回開催の連携会議、隔月に1回連絡調整会議の連絡調整、資料作成等の準備を行う。		

【連携会議】	
第32回連携会議 令和2年9月24日	
主な協議内容:(1) 令和元年度事業報告書(案)	
(2) 綾プロ事務局令和2年度運営体制	
第33回連携会議 令和3年2月24日	
主な協議内容:(1) 令和2年度事業取り組み状況報告	
(2) 令和3年度事業計画(案)	

連携会議 各機関担当者の数	
※連携会議名簿による	
九州森林管理局	2
宮崎森林管理署	1
宮崎県	3
綾町	3
日本自然保護協会	2
てるはの森の会	4
学識経験者	1

【連絡調整会議】	
第1回 令和2年7月28日	
主な協議内容:令和元年度事業報告(案)について、	
事務局運営体制について	
第2回 令和2年9月24日	
主な協議内容:第 32 回連携会議について、	
綾プロ事務局運営体制について	
第3回 令和2年11月27日	
主な協議内容:令和元年度綾プロ活動報告概要版について、	
11 月 28 日(土)の復元作業について、	
住民説明会について、	
2 月の復元作業について、	
九州自然歩道のルート変更について	
第4回 令和2年1月22日	
主な協議内容:町民への事業報告について、	
2 月の復元作業と植生調査、電波環境の整備について、	
次回第 33 回連携会議について	
第5回 令和3年2月24日	
主な協議内容:第 33 回連携会議について、	
九州自然歩道魅力ステップアップ事業について	

連絡調整会議 各機関担当者の数	
九州森林管理局	3
宮崎森林管理署	2
綾森林事務所	2
宮崎県	2
綾町	4
日本自然保護協会	2
てるはの森の会	3
学識経験者	1

3項目:照葉樹林の復元

事業名	復元手法の検討（継続）	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	3－1－①	連携先	連携会議各機関
事業概要 （目的）	復元手法検討会を開催し、照葉樹林復元に向けた手法等の検討を行う。		
・ 新型コロナ感染の影響等により、復元手法検討会は実施できていない。 ・ 別紙、実施項目 3－3－②の、「令和 2 年度照葉樹林復元のモニタリング調査データ整理業務」報告書のとおり、これまでのモニタリング調査等を再整理したところの復元手法の提案等がなされていることから、前回、令和元年 5 月 7 日に開催された検討会の内容も踏まえて、当検討会を実施したいと考えている。			

3項目:照葉樹林の復元

事業名	人工林から照葉樹林への復元事業（継続） 県有林造成事業	実施主体	宮崎県
項目-行動計画- 実施項目	3-2-①、5-2-②、8-1-①	連携先	森林経営課 森林管理推進室
事業概要 (目的)	持続的な林業経営を行うエリア等において、スギ人工林の間伐を実施する。また、森林環境教育・保健休養的利用を図るとともに、人工林の針・広混交林化を進めるエリアにおいて、獣害防除を実施する。		

※短期行動計画の内容に重複する部分があることから、2項目の事業報告をまとめて行う。

1 間伐（列状間伐）3-2-①、5-2-②

持続的な林業経営を行うエリア（24林班）において、9.00haの間伐を実施予定であったが、入札不調により、実施できなかった。

2 獣害防除（忌避剤散布）8-1-①

場 所 25世紀の森（カヤとスギの複層林）

面 積 3.23ha

時 期 1月～3月



忌避剤散布



カヤ植生状況

【参考】

○対象獣：シカ、ウサギ

○薬剤名：コニファー水和剤（生態系に配慮した安全な薬剤、獣類が嫌がる匂いを発する）

○散布方法：1ha当たり原液12.5リットルの薬剤を、地際から1.5m高まで散布

○散布回数：年2回（餌が不足する11～3月が適期、2回目の間隔は1ヶ月以上開ける）

3項目:照葉樹林の復元

事業名	人工林から照葉樹林への復元作業(継続)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	3-2-①	連携先	—
事業概要 (目的)	復元エリア、保護エリア、環境教育エリアの国有林において、人工林を照葉樹林に復元するための間伐を実行。		

復元エリア(No.5)において、人工林から照葉樹林へ誘導するための間伐を実行。

- ・作業種:本数調整伐(間伐)
- ・面積:58.06ha
- ・作業期間:令和2年12月4日から令和3年3月19日



3項目:照葉樹林の復元

事業名	綾プロエリア等における鳥獣捕獲等事業 (継続)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	3－2－③	連携先	
事業概要 (目的)	綾プロエリア内にある大森岳林道、綾南林道沿い等において、請負事業による鳥獣捕獲(誘引捕獲)を実施。		
大森岳林道周辺において、ニホンジカの捕獲を実施。			
・作業種:餌を用いたくくりワナによる捕獲			
・捕獲頭数:50頭(成獣46頭、幼獣4頭)			
・期間:令和2年3月19日から令和2年8月11日			

3項目:照葉樹林の復元

事業名	照葉樹林復元の動態モニタリング等 (継続)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	3-3-②	連携先	—
事業概要 (目的)	既往調査結果の再整理、分析。これに基づく今後の調査及び復元作業等の提案のための委託業務を実行。		

【業務名】

令和2年度照葉樹林復元のモニタリング調査データ整理業務

【目的】

これまでのモニタリング調査結果を再整理して復元効果等を分析するとともに、今後行うべき調査及び復元作業等の提案を行い、今後の綾プロジェクトの取組に反映させることを目的とする。

【調査内容】

・平成16年度から令和元年度までに実施した照葉樹林への復元に関する各種モニタリング調査結果について、表などを用いてプロット別、作業方法別に再整理した上で、メタ解析等により復元に影響する因子の抽出や復元効果の分析を行う。

・既往プロット毎に今後行うべき調査及び復元作業（継続、改良、終了等）、新規プロット設定の必要性及び調査内容、モニタリング調査の実施間隔を提案する。

【調査結果の取りまとめ】

・優先度区分1では最優先で逆除伐を実施し、早期の照葉樹林復元を目指すこととする。

・優先度区分2では、前生稚樹に配慮した間伐を継続して実施し、林床の照度を持続させるために3 伐7 残程度の列状間伐（列状伐採）もしくは群状間伐（小面積伐採）を行うこととする。

・優先度区分3では間伐により復元を進めているが、種子供給源からの距離の問題や、シカの影響により復元が進んでいない林分が多いため、追加の復元手法を検討することが必要となっている。

令和2年度

照葉樹林復元のモニタリング調査
データ整理業務

報告書

令和3年3月

林野庁九州森林管理局

① 発生した照葉高木種実生の保護育成（シカ食害対策）

② 照葉高木種稚樹の人為導入

3項目:照葉樹林の復元

事業名	照葉樹林復元ボランティア作業の実施	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	3-4-①	連携先	てるはの森の会
事業概要 (目的)	照葉樹林復元のためのシカネット設置作業を実施		
平成17年の協定締結以降、一般企業、学生、NPO、綾町民など様々なボランティアに参加いただき、照葉樹林への復元を図るため各種作業を実施している。 11月の第1回目は、新型コロナウイルス感染防止のため、ソーラーフロンティア株式会社から中止したい旨の申し出があり中止を決定。2月の第2回目についても、同感染防止のため、大和ハウスからの申し出により中止となった。			

4項目：照葉樹林の調査研究

事業名	市民参加による自然林の復元調査(継続) 及び自然林の調査(継続)	実施主体	NACS-J
項目-行動計画- 実施項目	4-5-①	連携先	綾町・てるはの森の 会・九州森林管理局
事業概要 (目的)	ボランティアによる間伐の効果を把握すること。市民に綾プロの取り組みに関心をもってもらい積極的に参加してもらうこと。得られた結果を元に復元に向けた対策を行うこと。		

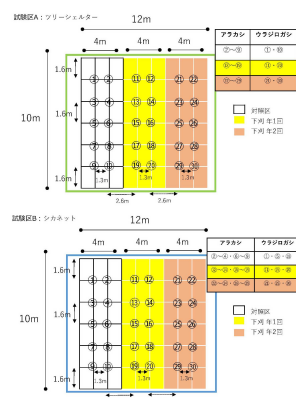
宮崎森林管理署が設置した試験地における再調査をボランティアの市民と一緒に調査することとした。本試験では、シカ柵と個別にシェルターを施した試験区および方形区における苗の成長量(樹高・根茎の変化量)を比較することを目的とした。綾プロエリア外である 2004 年 10 月 1 日(平成 16 年)に試験地を設けた。試験区は 2 箇所設置し、シカ防護ネットの設置と個体ごとにシェルターの設置の 2 種類の二ホンジカ対策を施した 10m×12m の試験区を設置した。各試験区には 1.6m×1.6m メッシュごとに 30 本ずつのアラカシとウラジロガシのポット苗を移植した。さらに、管理方法の違いとして下刈年 1 回、下刈年 2 回及び管理を行わない対照区ごとの成長の違いも比較できるようにした。苗の成長は根本径(D0,mm)と樹高(H,cm)を測定した。

調査は2020年3月10日、6月26日、11月28日の3回計測した。前2回は宮崎森林管理署、後の1回はボランティアの市民により調査を実施した。

調査結果

比較を行った条件は、保護策(シェルターと防鹿柵)、管理(対照区、下刈 1 回、下刈 2 回)であり、2020 年 3 月、6 月、11 月の 3 回測定を行った。樹高の平均値を比較したところ、植栽された 3 月には各条件ごとに平均樹高(15.1~20.6 cm)の違いは見られなかった(図 3)。6 月にはシェルターでは、平均樹高が 25.4~35.7cm、防鹿柵では 25.9~26.5 cm というように、3 月と比較してシェルターでは有意に差が出たのに対して、防鹿柵では違いがなかった。さらに 11 月には、シェルターでは平均樹高が 69.8~85.1 cm、防鹿柵では 47.0~55.1cm となり、シェルターでは有意に 3 月、6 月と比較して 11 月の平均樹高が高かった。防鹿柵も 11 月については、3 月、6 月と比較して有意に高くなった。

目的変数を年間樹高成長量(cm/yr)、説明変数を保護策(シェルターと防鹿柵)と管理(対照区、下刈 1 回、下刈 2 回)として、多元配置分散分析を行ったところ、年間樹高成長量は保護策の違いにより説明することができ、シェルターを用いた方が防鹿柵の場合に比べ管理の違いによらず樹高成長が有意に高くなったことが明らかになった(ANOVA, $P < 0.001$)。



5項目:照葉樹林を通した環境教育

事業名	環境教育のための実施計画の検討(継続)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	5-1-②	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	森林環境教育基本計画に基づく具体的な実施計画書の策定を行う。		
・各機関からプログラムの提出を受けたが、その後、様式変更に伴う作業が進んでいない状況。 ・各機関と現状を確認させていただき、検討する材料をしっかりと整理した上で、実施計画書の策定を進めていきたいと考えている。			

5項目:照葉樹林を通した環境教育

事業名	照葉樹林に親しむイベントの開催 (継続)	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画- 実施項目	5-1-③	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	町民を対象に、照葉樹林に親しむ散策や体験等を企画し、綾プロへの理解を深める		
○綾・照葉樹林ロングウォーキングは、当初から計画なし。			

5項目：照葉樹林を通した環境教育

事業名	照葉樹林を通しての環境教育(新規) 九州自然歩道魅力ステップアップ事業	実施主体	宮崎県
項目-行動計画- 実施項目	5-2-②	連携先	自然環境課
事業概要 (目的)	九州自然歩道の利活用を通して、自然や森林にふれあい、恵みを体感し、自然の大切さや森林の持つ公益的機能を学ぶ魅力ある場としていくため、全線のコース現況を把握する調査を行い、整備・利用計画を策定する。		

【調査内容】

1 基本調査

- ・事前に既存資料や関係者等から状況把握を行い、現地でのルート調査を実施した。
- ・現地調査では、過去眺望の良かった場所や事故発生箇所、災害等による通行不能箇所、標識類設置状況等を確認した。また、簡易GPSで位置情報を記録しデーター化を図った。
- ・通行不能箇所については、既存の公道等を活用したコース変更等、対応策の検討を行った。

2 整備・利用計画の策定



指導標識の健全度確認



路線の損傷調査



通行不能区間の新たなルート提案

- ・基本調査で得られた情報を元に、ルート図作成、標識類の設置位置や数及び健全度確認、通行不能箇所のリルート提案等を行った。
- ・整備や復旧に要する概算経費を算出した。
- ・ルート上や近隣の史跡、名勝、文化財、キャンプ場等、見所・遊び所を組み合わせた利活用ルートを策定し提案した。

【調査結果の今後の活用】

コロナ禍の現在、野外活動へのニーズの高まりにより、アウトドアやキャンプ、ロングトレイル、フットパスなど注目されており、九州自然歩道を活用した取組が期待されていることから、県では、上記調査を踏まえ、九州自然歩道の整備や維持管理に加えて、地域団体等が実施する利活用に対する活動を定額補助する取組を令和3～5年度の3ヶ年実施することとしている。

5項目:照葉樹林を通した環境教育

事業名	遊歩道整備ボランティア作業(継続)	実施主体	てるはの森の会
項目－行動計画－ 実施事項	5-2-②	連携先	宮崎県
事業概要 (目的)	照葉樹林トレッキングコースとして、歩道の整備や看板の整備等をボランティアと行い、新たな散策ルートとして活用する。		

○板木林道(大口遊歩道)

昨年台風による倒木があり通行止めとなったため、歩道の現況調査を行った。

実施日:①11月24日(火) 13:00～16:00

参加者:①3名(会員2名、スタッフ1名)

昨年台風により通行止めのため被害個所の調査をした。多数の箇所で見られた。復旧には、人手と資材が必要と思われる。




○川中自然公園

川中神社梅まつり当日に、歩道整備を計画していたが、コロナ感染防止のため、中止した。梅まつりは開催された。

5項目:照葉樹林を通した環境教育

事業名	照葉樹林を通しての環境教育(新規) 県有施設災害復旧事業	実施主体	宮崎県
項目-行動計画- 実施項目	5-2-③	連携先	自然環境課
事業概要 (目的)	照葉樹林を生かした自然体験の場として魅力ある利用拠点を推進するため、九州自然歩道内の危険箇所の改善や防護柵等の設置により、安全で快適な機能を高める。		

1 倒木に伴う歩道橋破損の復旧(測量設計)

綾の照葉樹林プロジェクト区域の九州自然歩道の中で、特に照葉大吊橋を中心とするエリアは、豊かな照葉樹林を堪能できる場所として多くの観光客から親しまれている。

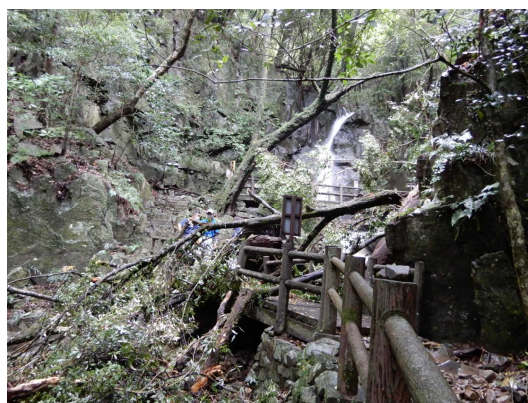
大自然を身近に体験できる九州自然歩道に対して、利用者が安全で快適に散策できるよう、法面や路体の崩壊部分、急傾斜箇所の安全対策等を行い、危険箇所を解消していく。

2 令和2年度実施内容

- (1) 施工場所 綾の照葉大吊橋 左岸側歩道 2042林班
- (2) 実施内容 測量業務 歩道復旧 L=0.01km
設計業務 歩道復旧 N=1式
- (3) 施工期間 令和2年12月14日～令和3年2月21日
- (4) 施工主体 宮崎県(中部農林振興局)
- (5) その他 令和2年7月の大雨により倒木が歩道橋を直撃し、歩道の通行が不能となり、歩道橋の手摺り等が破損したため、復旧に向けた測量設計を行った。
令和3年度復旧工事予定。



倒木に伴う歩道橋の破損



完全にふさがり通行止めとした

5項目: 照葉樹林を通した環境教育

事業名	環境学習事業 照葉樹林ガイドボランティア事業補助 (継続)		実施主体	てるはの森の会			
項目-行動計画- 実施項目	5-3-①		連携先	綾町			
事業概要 (目的)	大吊橋周辺遊歩道などで照葉樹林の貴重さや綾プロを普及させるため、照葉樹林ガイドボランティア実践活動やプロジェクトの視察対応、広報活動を行う。						
① 照葉樹林ガイドボランティア実践活動 代表的景勝地大吊り橋周辺遊歩道2km等をボランティアガイドの案内で散策する。 コロナ禍のため、県内にかぎりガイドした。 参加者合計 2回 110名							
NO	日程	曜日	来訪者名 (団体名・ツアー名等)	主催者名	主催者 所在地	ガイ ド	参加 者数
1	7月26日 or27日		個人(コロナで中止)		愛知県 豊田市		1
2	8月		個人(コロナで中止)		神奈川県		2
3	11月13日	金	綾町中坪保育所	綾町中坪保育所	綾町	5	32
4	11月19日	木	高原町4校連合小学校	宮崎ツアー サービス	宮崎県 小林市	3	75
② 照葉樹林ガイドボランティア研修							
				11月12日下見研修を、ガイド4名で実施した。その際、ガイドとして揃えてもらいたい備品として統一した帽子が欲しいとの要望があり、帽子を揃えた。 教材として登録辞退者も含めて綾の植物写真集を、継続者のみ綾町史を配った。 ガイド登録者は5名。綾町在住者は0となった。			
③ 発表(3月19日) 地域課題解決モデル事業「大人の山学校」事業報告会 みやざきNPO・協働支援センター							

6項目:プロジェクトの情報発信

事業名	会員情報(継続)	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画- 実施項目	6-1-①	連携先	全
事業概要 (目的)	官民協働プロジェクトを推進するため、市民参加の窓口としててるはの森の会会員へ入会を募集するほか、賛同者の寄付による参加を募集する。		

○正会員数 :R3.4.1現在
8名(内、理事5名)

○賛助会員数:R3.4.1現在
個人サポート会員 68件
法人サポート会員 15件
団体サポート会員 5件

○会費収入: 392,000円

○寄付金収入:271,572円

イベント等募金・ その他寄付	261,000
てるは大吊橋募金箱	10,572
計	271,572

【10周年寄付キャンペーン内訳】総額 532,500円

◎寄付額:1万円未満

・会員 40名 90,000円

・非会員31名 40,000円

◎寄付額:1万円以上

・会員 22名362,500円

・非会員 4名 40,000円

※綾プロ10周年として、てるはの森の会事務所を綾町に移転する費用として、寄付を募った。移転断念のため、用途変更の知らせを出し、返金希望の有無を尋ねた。
重複者、理事を除く81名にハガキを出し、1名1,000円を返金した。他はてるはの森の会活動に使用して良いとの意向であった。

6項目:プロジェクトの情報発信

事業名	普及啓発事業(継続)	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画 -実施項目	6-1-③、④	連携先	全
事業概要 (目的)	ホームページの更新やニュースレターの発行、イベントでの展示ブース出展等の広報活動を行なう。 ホームページ上にて報告書を掲載。		

○広報誌「照葉樹林だより」56号の発行(令和2年9月10日発行)
公開フォーラム「種お要樹林の生物多様性と恵み」

「照葉樹林だより」57号の発行(令和3年1月20日発行)
復元見本林の意義と今後の活用について

「照葉樹林だより」58号の発行(令和3年3月20日発行)
研究「種子が鳥に運ばれる距離は長い？」

○会報誌 表紙写真募集なし
令和元年度の入賞2作品を使用

○てるはの森の会のホームページ <http://teruhanomori.jp/>

照葉樹林だより 58号

令和2年12月アドレス変更

○てるはの森の会 facebook での情報発信

○視察対応 コロナ禍でなし

○ふれあい館&観光案内所での広報活動

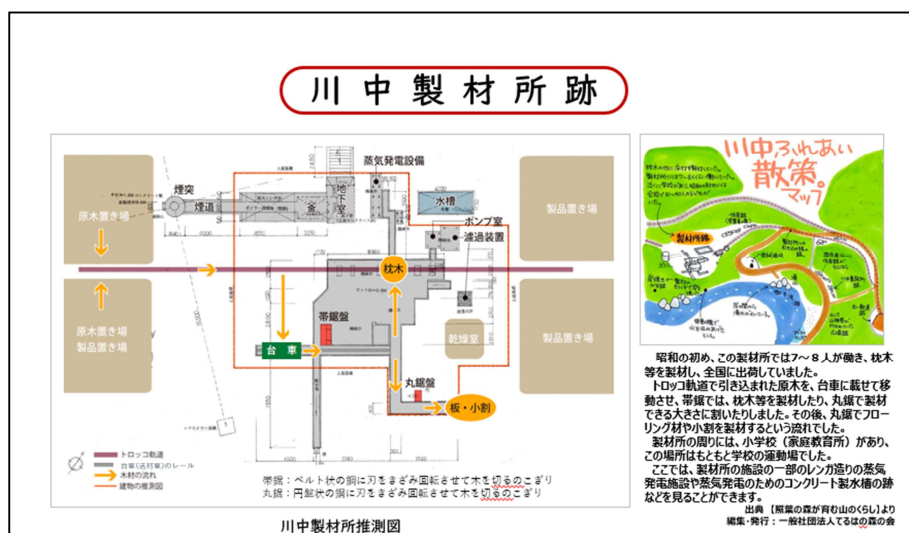
ふれあい館にて関連書籍やポストカードの販売を行っていたが、12月で閉店となった。
ほんものセンター敷地内観光案内所にて、広報誌や書籍の閲覧等、広報活動を行ってきたが、こちら3月末で閉店となった。



6項目:プロジェクトの情報発信

事業名	ホームページ等による情報発信	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	6-1-④	連携先	—
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトでの取組について、局ホームページ等に掲載し広く情報を発信。		

- ・ 新型コロナウイルス感染防止のため、ボランティア作業などのイベント等が実施出来ず、発信の機会がなかった。
- ・ 令和3年3月、川中製材所跡に案内板を設置、森林環境教育等に活用する。



- ・ 令和3年3月、綾の照葉樹林プロジェクトのリーフレットを改訂。(1,500部印刷)
各機関において、森林環境教育等を通じ普及啓発に役立てることとする。



6項目:プロジェクトの情報発信

事業名	事業説明会の開催（継続）	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	6－1－⑥	連携先	連携会議各機関
事業概要 （目的）	綾町町民等を対象に、事業説明会を行い、各機関の取り組みを普及啓発する。		
2月に予定されていた公民館大会は、新型コロナウイルス感染防止対策のため中止となり、事業説明会は開催出来なかった。			

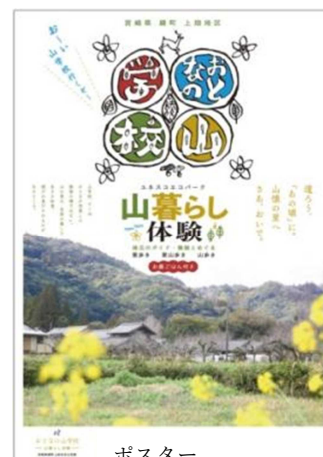
7項目:照葉樹林と共生した地域づくり

事業名	地域づくりワーキングの設置と運営 事業補助(継続)	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画- 実施項目	7-1-①	連携先	綾町
事業概要 (目的)	地域づくりWGは、綾プロジェクトの推進体制や当プロジェクトを活用した地域振興等に関する事項を検討し、住民参加を促すことを目的とする。		

里山散策体験ができる「大人の山学校」事業を企画立案し、検討会4回、書面決裁1回コース整備1回を開催した。魅力あるプログラムとするため、散策後に、旬の野菜や昔から伝わる猟師飯などの昼食を楽しめるようにメニュー開発も行った。

①「山歩きコース」②「里山歩きコース」③「猟師と里山歩きコース」の3コースを策定し、「猟師と里山歩きコース」では、実際使用されている「イノシシ罠」を見学、猟師から直接説明を聞くこともできるよう工夫した。11月23日(月・祝)に「猟師と里山歩きコース」モニターツアーを予定し、スタッフを含め20名参加で準備を進めたが、コロナ感染防止のため延期となった。

また、綾ユネスコエコパークセンターが申込向け入れ先として参加する事になった。



ポスター

○ワーキング委員会実施スケジュール

	日 程	委 員 会 の 内 容	参加人数
1	R2年6月9日(火) 19:00~21:00	・コースの名前 ・パンフレット・今後の計画	9名 町職員2
2	R2年7月16日(木) 17:00~20:00	・パンフの料理写真撮影、試食	7名 町職員2 猟友会2
3	R2年9月17日(木) 19:00~21:00	・モニターツアーの広報及び内容 ・モニターツアー実施日の決定 ・コース整備日調整	10名 町職員1
4	R2年10月29日(木) 9:00~11:30	・「猟師と里山歩き」コース整備	8名 町職員3
5	R3年2月 (書面決裁)	・ポスター、パンフレットの検討	9名 町職員1
6	R3年3月8日(月) 19:00~21:00	・ポスター、パンフレット配布 ・今後のスケジュール	11名

7項目:照葉樹林と共生した地域づくり

事業名	照葉大吊橋森の驛運営事業(継続)	実施主体	てるはの森の会・
項目-行動計画 -実施項目	7-1-②	連携先	綾町
事業概要 (目的)	照葉大吊橋食堂跡地において、「てるは森の驛」(1F:無料休憩所、照葉樹林に関するビデオコーナーやパネル等を展示、2F:木のおもちゃで遊べる木育体験コーナー、3F:飲食物を提供する軽食堂)を運営する。		

綾照葉大吊橋は、コロナ感染防止のため、4月20日～5月15日まで、また台風10号で9月5日～8日まで閉鎖された。観光客は団体客を中心に減少し、3F「てるは森の驛」も日曜、連休のみの開館となった。昨年より「てるは森の驛」固定電話を廃止し、吊橋料金所を連絡先としている。

○3F: 飲食物を提供する軽食堂「てるは森の驛」 ○2F: 木育広場として活用



食堂のようす



木育広場

○1F:森の紹介ビデオコーナー



7項目:照葉樹林と共生した地域づくり

事業名	綾町森林づくりビジョン策定(継続)	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	7-2-①	連携先	九州森林管理局 宮崎県
事業概要 (目的)	平成 30 年 4 月に策定した綾森林整備計画策定と関連づけて策定を行う。		
綾町森林・林業関係検討会(綾町、宮崎中央森林組合、中部農林振興局、宮崎森林管理署)の中で検討を行った。検討会は6月30日(参加者13名)、11月11日(参加者12名)、2月19日(参加者6名)の3回実施。 平成29年7月に綾町森林づくりビジョンの原案が策定されており、具体的な内容について、農林振興課を中心に加筆作業を行い、概ね完成。次年度にイラストの追加修正を予定。			
 6月30日検討会  11月11日検討会			

7項目: 照葉樹林と共生した地域づくり

事業名	ユネスコエコパークとの連携(継続)	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	7-3-①	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	綾ユネスコエコパークと連携することで、綾プロの認知度を高め、活動を活性化する。		

■綾ユネスコエコパーク推進の根幹となる協議会等の運営

令和2年 8月26日(水) 第10回専門委員会 一部オンライン

〃 10月26日(月) 運営会議

10月28日(水) 地域連携協議会

令和3年 3月15日(月) 第11回専門委員会 すべてオンライン

各種協議会等を上記のとおり開催した。綾ユネスコエコパークセンターの利用状況、各事業の進捗状況の報告、ユネスコへの定期報告等について協議した。



<綾BR地域連携協議会>

■綾ユネスコエコパークエリア(緩衝地域)拡張にむけた調査の実施および検討協議の推進
道路工事規制等で調査できていない。今後も九州森林管理局と調整しながら検討を進める。

■綾ユネスコエコパークエリア内における生物多様性に関わる基礎調査の実施
主に緩衝地域の未記載生物等に係わる調査を実施し昆虫類185種を確認。新種も確認された。

■綾ユネスコ エコパーク年間活動 令和2年度活動実績 153日、203件

綾ユネスコエコパークセンターを利用した小・中学校の校外学習等の対応を行った。新型コロナウイルスの影響により視察対応はほとんどなかった。

※()内は綾町の令和2年度綾プロ事業計画に関係するもの

- | | |
|------------------|-----------|
| 1. 視察・外部対応 | 48件 (1件) |
| 2. 主催イベント・講座等の開催 | 41件 (6件) |
| 3. 他者主催講座等への参加 | 3件 (1件) |
| 4. 取材対応 | 9件 (1件) |
| 5. 調査・作業 | 16件 (14件) |
| 6. 会議・下見・打合せ等 | 86件 (37件) |

7項目:照葉樹林と共生した地域づくり

事業名	綾ユネスコエコパーク専門委員会、地域連携協議会への出席。綾町ユネスコエコパーク運営会議における実施計画策定支援(継続)	実施主体	NACS-J、綾町
項目-行動計画- 実施項目	7-3-①	連携先	綾町
事業概要 (目的)	地域連携協議会、専門委員会へ出席し、国内外の情報を活用してよい方向に進むようアドバイスをを行う。		
令和2年度に発表された綾ユネスコエコパークを紹介した講演会や研修を示す。			
・2020 年 10 月 19 日「日本のユネスコエコパーク制度強化に向けたグッドプラクティスの共有と実践活動」文科省ユネスコ未来共創プラットフォーム事業ワークショップ① ・2020 年 11 月 10 日「生物多様性に関する NGO の観点」、林野庁森林技術総合研修所 ・2021 年 1 月 20 日「海外における定期報告作成事例」「綾 BR における定期報告作成状況」文科省ユネスコ未来共創プラットフォーム事業ワークショップ③ ・2021 年 2 月 21 日「未来共創プラットフォーム事業全国セミナー」自然科学セッション ・朱宮丈晴(2021)復元見本林の意味と今後の活用について 照葉樹林だより No57: 2-3. ・2021 年 8 月 26 日綾 BR 専門委員会(綾町) ・2020 年 10 月 28 日綾 BR 地域連携協議会(綾町) ・2021 年 3 月 15 日綾 BR 専門委員会(綾町)			

8項目:生物多様性の保全

事業名	持続的林業経営エリアにおける森林整備	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	8-1-①	連携先	—
事業概要 (目的)	持続的林業経営エリアにおいて、水土保持機能を高めるための間伐を実行。 持続的林業経営エリア（No.11）において、間伐を実行。 ・作業種：保育間伐（活用型、存置型） ・面積：活用型23.88ha、存置型3.85ha ・作業期間：令和2年10月6日～令和3年3月19日 （活用型）  （存置型） 		

8項目:生物多様性の保全

事業名	綾生物多様性地域戦略 実践支援事業(継続)	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	8-2-②	連携先	NACS-J
事業概要 (目的)	綾生物多様性地域戦略の内容を実際に実施していくための綾町内での活動を委託する。		

■綾プロエリア内林床植生調査

日本自然保護協会、林床調査ボランティアと連携し、自然林の復元状況を把握するための調査を実施。令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策としてボランティア間伐作業が中止となったため、宮崎森林管理署が設置した試験地で、シカ柵とシェルターを施した苗の成長量を調査した。

○国有林 2004 年林小班(綾プロエリア外:H29 皆伐実施跡地)

〈第1回目〉

- ・日 時 令和2年6月26日
- ・参加者 宮崎森林管理署、日本自然保護協会

〈第2回目〉

- ・日 時 令和2年11月28日
- ・参加者 9名(ボランティア、町、宮崎森林管理署、てるはの森の会、日本自然保護協会)



令和2年11月28日

シェルターを用いた方が防鹿柵の場合に比べて管理の違いによらず樹高成長がよくなったことが明らかとなった。

■生物多様性地域戦略実施支援

生物多様性地域戦略の内容を踏襲して書かれている綾ユネスコエコパーク(BR)の定期報告の作成に関し、国内に参考事例がないことから、日本自然保護協会からの協力のもと、今回は海外の事例を収集し参考とした。綾BR定期報告案と中国北東部の五大連池BRの定期報告を比較することで、設問に対する回答の整合性を図るなど、作成する上で留意すべき点についてとりまとめた。

■情報収集

令和2年度に発表された綾ユネスコエコパークに関する情報を収集した。令和2年5月に行われた生物多様性条約と第15回締約国会議の注目点についての勉強会資料について情報をとりまとめた。

令和2年度 社会的活動について

①綾の森に関する視察・研修・観光・学習・森づくり等対応数

A:綾プロを主な目的として対応したもの

国 別							(件数)
日本	アジア	中近東	オセアニア	欧州	アフリカ	北米	中南米

B:綾ユネスコエコパークの一部として対応したもの

国 別							(件数)
日本	アジア	中近東	オセアニア	欧州	アフリカ	北米	中南米
27							

②新聞・メディアでの露出数(キーワード「綾プロ」、「BR」、「照葉樹林の保護復元」)

媒 体					(件数)
新聞	雑誌/書籍	テレビ	ラジオ	インターネット	
	1	1			

※新聞・雑誌/書籍は綾プロ報告書掲載分をカウント

③論文、寄稿、講演、表彰の数

媒 体						(件数)
論文(※1)	論文(※2)	論文(※3)	寄稿(※4)	講演	表彰	
				8		

※論文・寄稿は綾プロ報告書掲載分をカウント

(※1)綾プロ関係者が発行者または著作者であるもの(調査報告書、事業報告、冊子含む)

(※2)綾プロ関係者以外が研究対象として綾プロの活動を取り上げ発行・著作したもの

(※3)綾プロ関係者以外が研究対象として綾プロフィールを取り上げ発行・著作したもの

(※4)綾プロ関係者が他機関が発行・編集するものに依頼を受けて綾プロに関連することを執筆したもの

④各者の年間支出(てるは人件費・事業費の合計、その他4者は事業費のみ)

(単位 千円)四捨五入

九州森林管理局	宮崎県	綾町	日本自然保護協会	てるはの森の会
4,991	10,073	1,874	80	1,684

令和２年度 綾の照葉樹林プロジェクト関連文献一覧

タイトル	発行者	発行年	事務局 / 執筆者	雑誌	種類	HP上での公開/非公開	公開しているHP名
令和２年度 照葉樹林復元のモニタリング調査データ整理業務	九州森林管理局	2021年	九州森林管理局		報告書	非公開	—
ユネスコエコパーク通信 綾の照葉樹林プロジェクト活動報告	綾町	2020年	綾町役場	広報あや	広報	公開	綾町役場 広報あや(2020年)
照葉樹林だより第56号～58号	(一社) てるはの森の会	2020年～2021年	(一社) てるはの森の会		会報	公開	てるはの森の会
復元見本林の意味と今後の活用について	(一社) てるはの森の会	2021年	朱宮文晴	照葉樹林だより	会報	公開	てるはの森の会
令和２年度 綾生物多様性地域戦略実施計画支援事業報告書	綾町	2020年	日本自然保護協会		事業報告	非公開	—
綾照葉樹林の保護・復元を官民協働で取組む「綾の照葉樹林プロジェクト」～約1万haの森林をゾーニング、100年の長期計画で保護・復元～	(特非) 森づくりフォーラム	2021年	(特非) 森づくりフォーラム	人工林の多様性を高める森づくり事例ガイド	事例集	公開	NPO法人 森づくりフォーラム

令和２年度 綾の照葉樹林プロジェクト関連新聞記事

掲載日	新聞社名	掲載内容
2020. 10. 14	宮崎日日新聞	甲虫「チャイロツツクビコメツキダマシ」 綾町で国内初発見
2020. 12. 5	宮崎日日新聞	みやざき令和風土記「照葉樹林文化」



綾の照葉樹林 プロジェクト

発 行：令和３年８月

発行者：綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画 連携会議

編 集：綾町役場

お問い合わせ先：綾町役場 ユネスコエコパーク推進室（綾ユネスコエコパークセンター内）

〒880-1303 宮崎県東諸県郡綾町大字南俣 442 番地 3

TEL:0985-77-3482 FAX:0985-77-5125 電子メール:ecopark@town.aya.lg.jp

ホームページ: <https://ayabrcenter.jp/>